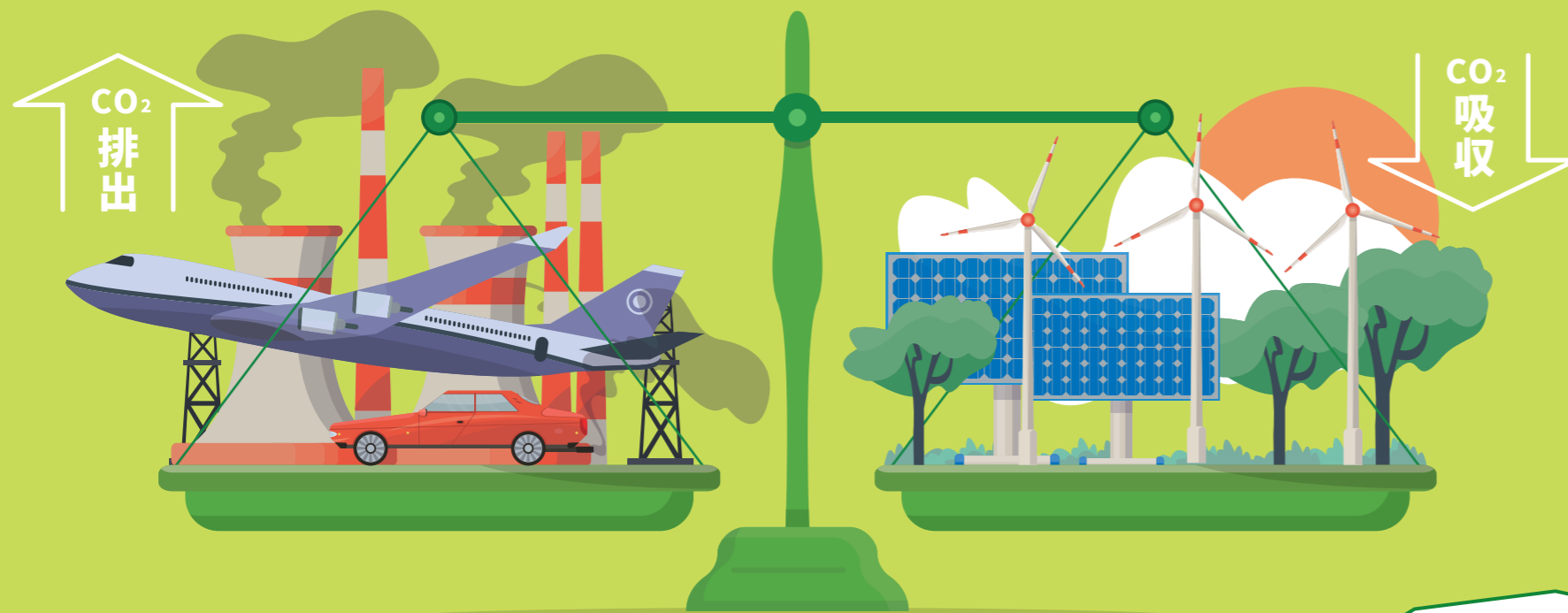




カーボンニュートラルって何？



カーボンニュートラルの実現へ、世界は大きく舵をきった。

最近、よく耳にする「カーボンニュートラル」とはそもそもどのような意味なのでしょう。

2020年10月、菅総理は所信表明演説でこう宣言しました。「我が国は2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに

宣言いたします」

ここでいう「全体としてゼロにする」とは、温室効果ガスの排出を完全にゼロにすることは難しいため、排出せざるを得なかった分については同じ量を「吸収」や「除去」しましょう、ということ。「吸収」「除去」とは、たとえば植林を進めて光合成に使われる大気中のCO₂の吸収量を増やす

こと等が挙げられます。これによって差し引きゼロの状態をめざす、これが「カーボンニュートラル」の「ニュートラル(中立)」を意味するところとなっています。

カーボンニュートラルが脚光を浴びるようになった背景には、深刻さを増す地球温暖化の問題があります。世界の平均気温は工業化以前(1850～

STOP地球温暖化をめざし、世界で取り組みが始まっているんだよ



1900年)と比べ約1.1°C上昇(2020年時点)し、また日本の平均気温は100年あたりおよそ1.3°Cの割合で上昇していると言います。

パリ協定(2015年採択、2016年発効)では、地球温暖化対策として各国に2050年までにCO₂排出量の大幅削減やカーボンニュートラルの実現を求めています。加えて、国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の「IPCC1.5°C特別報告書」によると、産業革命以降の温度上昇を1.5°C以内におさえるという努力目標を実現するには、2050年頃までのカーボンニュートラルが必要という報告がされています。

これに応えるかたちで、日本を含む124か国と1地域が2050年までのカーボンニュートラルの実現を表明しました(2021年1月20日時点)。

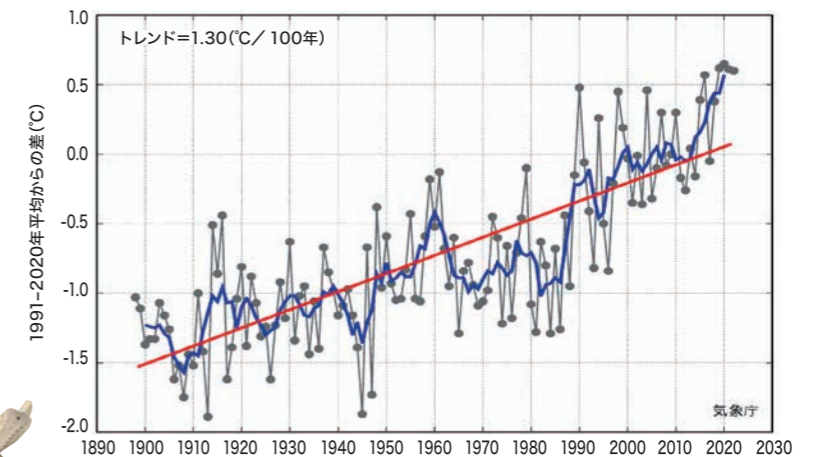
日本国内では地球温暖化対策の見直しと施策が進められている他、産業界においてもカーボンニュート

ラル実現に向けたさまざまな取り組みが始まっています。

アルミニウムは軽くて強いため、輸送機器の軽量化に貢献し、それにより燃費が向上し、CO₂の排出削減に寄与します。それだけでなくアルミニウムは、リサイクル性に優れ、新地金から製品を作る場合に比べ、リサイクルの場合は、CO₂排出量を97%削減できます。カーボンニュートラルの実現には、製品の原料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通しての環境負荷を算定する手法「ライフサイクルアセスメント(LCA)」が重要となっています。LCAを用いた環境負荷の軽減が求められるなか、リサイクル性に優れたアルミニウムを製品に採用することで、CO₂排出量の削減に繋がります。2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、アルミニウムへの期待が高まっています。

日本の年平均気温偏差

日本の平均気温は100年あたりおよそ1.3°Cの割合で上昇し、熱帯夜や猛暑日が増え、冬日(1日の最低気温が0°C未満の日)が少なくなっている。



出典:気象庁HP